

挿絵や写真のうち、触図化が困難であり、本文を理解する上で必ずしも必要でないものは省略し、必要に応じて文章による説明を加えた。なお、原典の奇数ページ右下隅にある一連の図については、第2学年を除き省略した。

イ 図の製版は裏面に影響するため、図は本文の後に、ページの下方に図の区切り線を引いて書くか、あるいはページを改めて書いてある。したがって、関連する本文の近くに図を挿入することができない場合も多いため、該当する本文中に、章ごとの一連番号とした図番号（「ズ1-1」など）をつけるとともに、図にも同じ番号をつけて対照させている。ただし、「内容のたしかめ」、「数学の自由研究」など、章とは別の図番号は、「ナー1」「スナー2」などとしている。なお、次の「2 編集の具体的内容」では、図番号を記さず、すべて「図〇〇」と表現した。

ウ 図の外形線や重要な線は、触刺激の強い中程度の凸点の連続線や点線を用い、補助的な線や展開図の折り線などには小点の連続線や点線を用いた。グラフは、原則として座標軸以外の方眼線は読み取りに支障をきたさない限り凹線とし、他は凸線や凸点とした。なお、方眼や座標の目盛り線など、そのままでは密度が高く触読の困難なものは、適宜省略した。

エ 寸法線や寸法補助線は、すべて描くと触図の読み取りを困難にするため、誤読のない限り省略して必要な部分のみとした。なお、矢印については、寸法線など範囲を示すだけのものは省略したが、関数の増減などを示す部分については、触読が困難と思われる場合もできるだけ残した。

また、図中の単位記号については、(注)として図の最初にまとめて記す方法なども用いた。

オ 立体図については、見取図は触図にするとほとんど理解できないので、手で実物を触って展開した形に近い、第3角投影図法の表現によった。その場合、「平面図」、「立面図」などの表現はとらず、「上から見た図」、「前から見た図」、「…の断面図」などと表現した。厳密には「真上から見た図」、「底面と平行で…の面と直角に、…の方向から見た図」などとすべきであるが、かえって理解しにくい場合もよくあるので、概略が理解できる「上から…」、「前から…」などの表現にとどめた。

なお、次の「2 編集の具体的内容」では、見取図を単に「上から見た図」、「前から見た図」として表現した場合は省略し、それ以外の場合について説明を加えた。

- (9) 電卓については、音声あるいは触読ピンで出力する機種を利用することができる。ただし、現状では、小型で廉価な機種はルートキーがなかったりなど、盲人用電卓の環境は必ずしも十分ではない。そのため、応用可能な部分については、盲人用そろばん（『盲学校小学部点字教科書編集資料』「算数」参照）や、コンピュータを音声などの出力によって利用したりするなどの工夫も必要である。平方根表は、今回の原典にはないが、このような事情を考慮し、3学年1巻末に入れることとした。

2 編集の具体的内容

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	見返し	写真	差し替え	写真を削除し、裏見返しの建物とあわせて説明を6章末に挿入した。	
	見返し裏	写真	差し替え	写真を削除し、以下の説明文を1章の初めに挿入した。 朱鞠内湖のモニュメント 日本最寒の地として知られる北海道の朱鞠内湖には、 -41.2° と記されたモニュメントが建てられている。 この章では、このような数について学ぶ。	
	6,7	写真	差し替え	写真を削除し、「4月のある日の最低気温」として表にした。	モスクワ、ペキン、…、カイロの順
	10	図	追加	地図のほかに、「ある日の予想最高気温」を表にした。	札幌、…、沖縄の順
	10	写真	修正	写真を削除し、ヒントさんとして「ビデオカセットレコーダの前面に、 $-1:25:00$ と表示されている。」を追加した。	
	11	14	追加	(注) 分数は、分数囲み記号を用いて $\frac{\text{分子}}{\text{分母}}$ と書く。 問2の④ $\frac{-2}{1}$ は、この表記を用いた分数表現で、「マイナス2分の1」と読み、数直線上で「原点から負の方向へ2分の1」に対応する点を示している。	各学年とも分数の初出部分に説明を加えた。
	32	3	修正	$2 \times 2 \times 2 \times 2$ は 2^4 と表し、2の「4乗」、 $2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2$ は 2^5 と表し、2の「5乗」という。このように、同じ数をいくつかかけたものを、その数の「累乗」といい、記号「 $^{\text{乗数}}$ 」の次に書いた数を「指数」という。累乗の指数は、かけた数の個数を示している。	2乗と3乗の表記が略記されるため、4乗以上で説明している。
	32	9	追加	点字では、特に2乗と3乗について指数部分にそれぞれ「 $^{\text{乗数}}$ 」と「 $^{\text{乗数}}$ 」という特別な記号が定められており、5の2乗は 5^2 2の3乗は 2^3 と簡単に表すことができる。 (注) 一般には $2 \times 2 \times 2$ のことを $\text{図}\text{〇}\text{〇}$ のように書き、かけあわず数の右かたに小さく指数を書くことになっている。	
	34	21	追加	(注) 例3では $\frac{-3}{5}$ は分子が「マイナス3」で分母が「5」、すなわち「5分のマイナス3」を意味している。一方 $\frac{3}{5}$ は、絶対値が「5分の3」の分数に「マイナス」という符号をつけたものを意味している。	1学年では、ここでも分数の説明を加えた。
39	写真	差し替え	問2の写真を削除し、「世界時計(熊本県)」について以下のような説明を追加した。 「熊本国際交流会館には、世界地図の上に東京と10都市のローカル時間を表示する10個のデジタル式の世		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	69	図	修正	表に変更し、2gをはかる場合のみ天秤の図を示した。	
	71	図	修正	式と図に番号をつけ、対応が分かるようにした。	
	77	7	修正	式に番号をつけ、説明文との対応が分かるようにした。	
	79	写真	修正	写真枠のみとした。	
	79	7	修正	番号をつけ、説明文との対応が分かるようにした。	
	88		修正	最初に「けい子さんとまなぶさんが風呂に水を入れています」とし、2人のせりふのみとした。	
	92	17	修正	薬の写真は削除し、「ヒントさん『薬のびんのラベルに次のように書いてあるよ。 用法：15才以上1回3錠，11才以上15才未満1回2錠，6才以上… 用量：11才未満1回1錠を1日3回食後なるべく30分以内に服用・・・』」とした。	
	109	7	修正	写真を削除し、ヒントさんとして、 「1回目 1枚を切ると2枚になる。 2回目 その2枚を重ねて切ると4枚になる・・・。」という説明にした。	
	110	13	修正	写真を削除し、「下のような針金でできた恐竜の重さ」を「針金でできた恐竜（ステゴザウルス）の重さ」に修正した。	
	116	写真	差し替え	対称な図形の導入となる写真については、説明のための文章を追加し、模式図化した。風車の写真は削除し、ハウステンボスの風車の説明文の中で補足した。	
	118	図	修正	折ったことが分かるように、もとの正方形も加えた。	
	121～	図	削除	奇数ページの右下の図を削除した。	
	123	3	追加	次の注を追加した。 (注) 一般には、垂直の記号 \perp を \perp と書く。	
	123	16	追加	次の注を追加した。 (注) 一般には、角の記号 \sphericalangle を \sphericalangle と書く。	
	124	図	修正	平行四辺形を合同な2つの図形に分ける図は、途中で切り分けた図を加えた。	
126	9	追加	次の注を追加した。 (注) 一般には、平行の記号 \parallel を \parallel と書く。		
128	14	追加	次の注を追加した。 (注) 一般には、 $\overbrace{\quad\quad\quad}$ を $\overbrace{\quad\quad\quad}$ のように書く。		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	132	8	追加	正六角形の作図は、図だけでなく、次のような作図の説明を加えた。 ① 適当な長さの線分をかき、コンパスを合わせる。 ② ①で合わせた長さを半径とする円をかき。 ③ 円周上に1点Aをとり、Aを中心として半径と等しい長さで円の一部をかいたとき、もとの円周と交わるところに印をつける。 ④ 印をつけたところを中心として、③と同じように次々に印をつける。 ⑤ 円周上につけられた6つの印をAから順に定規で結ぶ。	
	133	14	追加	次の注を追加した。 (注)一般には、三角形の記号 \triangle を Δ と書く。	
	145	図	修正	図を簡略化した。	
	146	写真	差し替え	写真を削除し、次の説明を追加した。 「私達の周りには、いろいろな立体があります。大きなものでは、高層ビルの多くは四角柱のような形です。小さなものでは、ミョウバンの結晶は8つの三角形で囲まれた形をしています。三角や四角の板でこれらの立体を作ることができます。」	
	147	図	修正	切り離した6つの正三角形をはりつけ、正六面体を作る図は、中央の図のみとして、巻末にも切り取り可能なものをつけた。	
	147	7	修正	キャラクターの図は削除し、吹き出し部分を「手がかり(鉛筆マーク)」の文に続けて表した。	
	149	1~4	修正	次のように修正した。 「多面体には、正四面体(4枚の正三角形で囲まれた形)、正六面体(6枚の正方形で囲まれた形)、正八面体(8枚の正三角形で囲まれた形)、正十二面体(12枚の正五角形で囲まれた形)、正二十面体(20枚の正三角形で囲まれた形)の5種類がある。立方体は正六面体である。図〇〇はこれらの展開図である。」	
	149	図	削除	5つの正多面体の見取図は削除し、代わりに巻末に切り取り可能なそれらの展開図をつけた。	
	151	図	修正	四角錐、円錐の見取図は、展開図にした。 問6の図は、正四角錐の1つを「上から見た図」、「前から見た図」で示した。	
	152	図	修正追加	直線1を含む平面の図は、教科書を実際に折り曲げて使う図とし、次の補足説明文を追加した。 「図〇〇の直線1を折り目として実際にページを折ってみましょう。折り方によって、例えば、平面Pと垂直になるように折ったときが平面Q、平面Pと45°になるように折ったときが平面Rというように考えてみま	直角な2平面の関係を模式的に構成した。


学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年				しょう。]	
	152	写真	削除追加	問1の写真は削除し、ヒントさんとして次のように表現した。 ヒントさん「下敷きや塩ビ板のような平らな板は、3本の指で支えられるかな。2本ではどうかな。」	
	153	1, 2	修正	2平面の平行の図と直線の平面の平行の図は省略し、次のように修正した。 「机の面と床の面のように空間内の交わらない2つの平面を平行な平面という。また、机の上に引いた直線と床の面のように直線と平面が出あわないとき、その直線と平面は平行であるという。」	
	153	12	追加	空間における直線の平行の説明の図は、「断面図」で示したが、「ねじれの位置」についてもこの図を使って、次のような説明を追加した。 「図〇〇で、平面Q上に直線mと交わる直線nをひくと、この直線nと直線lは、ねじれの位置にある。」 また、ヒントさんによる説明も追加した。 ヒントさん「身の回りにも、ねじれの位置の関係になっているものがあるね。道路と立体交差した鉄道とは、上から見ると重なっているように見えるけど、ねじれの位置の関係にあるので、車と列車がぶつかることはないよ。鉄道と道路が平行だったり、交わったりする場合もあるね。」	
	154	図	修正	問4の図は削除し、代わりに三角定規の図を示し、ヒントさんとして次のように表現した。 ヒントさん「図〇〇のような三角定規を用意し、辺BCを机に置き、辺ACに細い棒をつけて考えてみよう。」	
	156	図	修正	底面が動いた図は、長方形、円と2つに分けず、1つの図で表した。	
	157	写真	削除追加	ケーキを切る写真は削除し、問題文の終わりに次の文を追加した。 「例えば、皿にのっている円柱の形をしたケーキを対称軸を含むように皿に垂直に切ると、どうなるかな。また、対称軸に垂直になるように皿と平行な平面で切ると、どうなるかな。」	
	158	18	修正	「見取図をかきなさい。」を「上から見た図と前から見た図をかきなさい。」と変更した。	
	160	7	修正	ひもがAB, EFと交わる点をそれぞれP, Qとした。	
	160	図	修正	三角柱からその展開図に変わっていく図は、展開図のみ示した。(P. 161の円柱, P. 163の円錐についても同様)	
	160	16	修正	「色分けして」を、「印をつけて」に変更した。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	163	14	修正	「見取図をかきなさい。」を、「上から見た図と前から見た図をかきなさい。」に変更した。	
	168	2	修正	写真は削除し、Qの文章を次のように変更した。 「図〇〇の立方体の各頂点をAとG, BとH, CとE, DとFと結ぶと、1点Oで交わります。このとき、この立方体は、図〇〇のようなOを頂点とし、立方体の各面を底面とする正四角錐が6個集まったものとみることができます。」	
	168	12	修正	写真は削除し、ヒントさんの吹き出しを、次のように一部修正した。 ヒントさん「円錐の形をした容器に入れた水を、底面積と高さが円錐と等しいような円柱の形をした容器に入れたら、1/3まで入ったね。」	
	170	19	修正	163ページと同様に修正した。	
	171	15	修正	図を2つに分けて示した。 「赤い線」という言葉は図番号に替えた。	
	174	図	修正	サッカー計算ゲームのコート上の選手番号とその答えの数字は、次のように表記した。 Aチーム7番の答えが 32 → A7-32 Bチーム4番の答えが 20 → B4-20 Aチームのゴールの答えが 10 → AG-10	
	182	写真	削除	写真を削除し「電卓のキー配列」を示した。	
	184	図	修正	図は、正六角形の場合と正十二角形の場合を示した。	
	185	3	修正	写真は削除し、建部賢弘に関する文と巻末の関孝和に関する文は、次のように修正した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>建部賢弘が将軍の徳川吉宗に献上した「綴術算経」を弟子たちの頼みで書き直した「不休建部先生綴術」には、上記の円周率の小数点以下40桁までが正しく記してあります。</p> <p>この他にも関孝和（1642年ごろ～1708年）がおり、彼は、江戸時代の数学の発展の基礎をつくり、「算聖」とたたえられています。……円周率を求めました。東京都の和算研究所には、関孝和の業績を弟子がまとめた「括要算法」という書物が保管されており、その中に円周率を示した部分がかかれています。</p> </div>	
	189	3		写真は削除し、次のように修正した。 「図〇〇は、3段ある階段に斜めにスロープをつけた模型を真上から見たときの図です。」	
	裏見返し裏			写真等は削除し、修正した説明文を185ページの該当部分に挿入した。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1年	裏見返し	写真	差し替え	<p>写真を削除し、次の説明を6章末に挿入した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">いろいろな形をした建物</p> <p>人造物の中には、いろいろな立体を巧みに組み合わせたものがあります。岩手県にある久慈市文化会館では、入口の建物が円錐形で、大小のホールのある本館は平面と曲面を様々に組み合わせた構成になっています。この他にも、岡山県の井原駅、北海道の北方民族博物館、富山県の立山博物館、石川県の浅蔵五十吉美術館、鹿児島県の出水市ツル博物館、福岡県の北九州市立美術館なども様々な立体を組み合わせた建物になっています。</p> </div>	
2年	見返し	写真	修正	<p>写真を削除し、ダイアグラムのみ簡略化し、「函館本線のダイアグラム」として、3章末に挿入した。</p>	
	見返し裏	写真	修正	<p>楽器の形を点図化し、説明を加え4章に挿入した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">いろいろな形をした楽器</p> <p>世界には、いろいろな形をした楽器があります。胴の部分が四角形だったり、三角形だったり、八角形だったり、中には、丸いものもあります。(図〇〇)</p> </div>	
	6,7			<p>2人のキャラクターを、「けい子さん」、「まなぶさん」とし、文章化した。</p>	
	7	1	修正	<p>表と吹き出し部分を、次のように修正した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ヒントさん「表〇〇を参考に計算してみましょう。また、最初に考える数は、2けたの数や負の数でもいいのかな。」</p> <p>表〇〇</p> <p>① □</p> <p>② 7</p> <p>③ □ (①-②)</p> <p>④ □ (②-③)</p> <p>⑤ □ (③-④)</p> <p>⑥ □ (④-⑤)</p> <p>合計 (①~⑥の和)</p> </div>	
8	7			<p>表を次のように修正した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>表〇〇</p> <p>① x</p> <p>② 7</p> <p>③ □ (①-②)</p> <p>④ □ (②-③)</p> <p>⑤ □ (③-④)</p> <p>⑥ □ (④-⑤)</p> </div>	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考						
2年	9	5	追加	次の注を追加した。 (注) 分数は分数囲み記号を用いて :: (分子) :: (分母) :: と書く。							
	11	15	修正	ヒントさん「上の式変形は、まず最初に項を並べ替え、次に同類項をまとめたんだよ。」							
	13	14	修正	ノートの部分を削除し、本文の式変形の途中に約分した後の式を挿入した。また、式変形の後に次の説明を追加した。 ヒントさん「約分して分母が1になった式は書かなくてもいいね。」							
	14	2	修正	ヒントさん「上の式の変形は、まず最初にかっこをはずし、次に同類項をまとめたんだよ。」							
	16	8	修正	式変形の途中に、約分した後の式を挿入した。							
		16	修正	式変形の途中に、約分した後の式を挿入した。							
	17	7	修正	式変形の途中に、約分した後の式を挿入した。							
	20	3	修正	吹き出しの式は、ヒントさんのコメントを加えてQの後に挿入した。 ヒントさん「こんな例はどうか。」							
	37	13	修正	天秤の皿にのせるものは、次のように文章化した。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>みかん10個</td> <td>バナナ1ふさとかき3個</td> </tr> <tr> <td>みかん6個とかき1個</td> <td>バナナ1ふさ</td> </tr> <tr> <td>バナナ1ふさ</td> <td>みかんが何個?</td> </tr> </table>	みかん10個	バナナ1ふさとかき3個	みかん6個とかき1個	バナナ1ふさ	バナナ1ふさ	みかんが何個?	
	みかん10個	バナナ1ふさとかき3個									
	みかん6個とかき1個	バナナ1ふさ									
	バナナ1ふさ	みかんが何個?									
	42	図	修正	簡単な図にした。							
	48～49	図表	修正	図を簡略化した。表は、単位を省略した1つの表のみを示した。							
	60	図	修正	2点間の矢印は、横4、縦2の長さのもののみ残り、他は削除した。							
62	図	修正	赤い太線は2重線とし、本文中の「赤い線」を「2重線」と修正した。								
64	2	修正	2点をP、Qとし、図中の座標は省略した。								
71	絵	差し替え	絵を削除し、「例1」の先頭に次の説明を挿入した。 「ピーカーに水を入れ、下からガスバーナーで熱した。」								
	図	修正	グラフの横の目盛りは、5°きざみとした。								
77	絵	修正	絵を簡略化し、「Aの管からは」を「上のAの管からは」に、「Bの管からは」を「下のBの管からは」に修正した。								

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年	79	3	追加	P, Qが往復する様子をグラフに表して考えよう。 (図〇〇)	
	79	4	修正	封筒を1枚洗濯ばさみに下げたとき、フィルムケースの位置を変えて、つり合う位置に印をつけます。	
	80	写真	差し替え	写真を次の文章と差し替えた。 「身の回りには、七角形をした記念コイン、六角形をした凧、三角形をした切手、五角形をした将棋の駒、四角形の道路標識、八角形をした日時計などいろいろな多角形の形が利用されています。」	
	85	7	修正	図が公園を想定しているので、そのことを文章化し、滑り台、砂場、ブランコなどの図は削除した。ヒントさんの図を文章化した。 「公園で、図〇〇のようにある地点Pを決め、そこから矢印の方向にまっすぐに5m歩きます。次に、左に60°向きを変えて5m歩きます。……」 ヒントさん「たとえば、左へ144°向きを変えたらどうなるかな？」	
	85～113	奇数ページの右下隅	修正	次の説明と、いくつかの図を示した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">外角の和の求め方</p> <p>図〇〇(1)のような五角形ABCDEの外角の和を求める別の方法について考えてみよう。〇〇ページ(2)～(7)に示したように、まずAの外角を移動してBの外角に加え、それを移動してCの外角に加えるというように順次各頂点における外角を加えていくと、どうなるかという考え方である。ヒントさん「最終的に、外角の和は360°となるかな？」</p> </div>	
	86	絵	修正	シーソーの絵を、簡略化した図にした。	
	88	写真	修正	三角定規のみの図とした。	
	94	図	修正	模様図は、一部分のみとした。	
	95	12	追加	(注) 一般には合同の記号 \cong を≡と書く。	
	96	6	追加	ヒントさん「図〇〇を参考にして考えてみようね。」	
	97	図	修正	赤い角を「1本の弧」、青い角を「2本の弧」表示とした。	
	102	7	追加	図における平行線の記号 2つの直線が平行であることを、その2直線に矢印を記すことによって表現する。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年	110	図	追加	図についての説明を追加した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1 中点がOであるひもを図○○のように置く。 2 ひもの左半分を図○○のように、Aと反対側に移動する。 3 図○○のように4点O、A、B、Cが決まり、Bの位置に直角ができた。 </div>	
	114	図	修正	「図○○のように直角∠Aの・・・」と図番号を前に入れたので、この図では、結論を示した印を削除した。仮定と結論の両方が記号化されて入っている図では、結論を示した印を削除した。	
	115	図	修正	結論を示した印を、削除した。	
	119	図	修正	結論を示した印を、削除した。	
	124	11	追加	(注) 一般には、平行四辺形の記号 \square を  と表す。	
	128	11	修正	状況を次の文章で説明した。 「中国の教科書にも平行四辺形の性質の証明がのっています。中国語での表現ですので、当然日本の教科書の記述と異なりますが、証明の流れなどがまったく同じであることが読みとれます。」	
	129	2	修正	遊園地には、真横から見た図を考えると、図○○のようになる乗り物があります。この乗り物では人が乗る面ADはいつも水平になるように動きます。いつも水平になるのはなぜでしょうか。乗る面ADが動いても変わらないのは、どの部分でしょうか。	
	134	図	修正	結論を示す線分の引き出し線、および「2本の線分」表示を削除した。	
	148	4	修正	漫画の図は削除し、次のように文章化した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> サッカーの試合を始めるのに、審判はどっちがキックオフか、コイントスで決めようと言いました。しかし、相手チームの代表は、 「コインがないからこの王冠で決めよう。」 と審判に王冠を渡しました。審判もその王冠を受け取り、それを投げて決めようとしています。本当にいいのかな。 </div>	
	151	写真	差し替え	写真を削除し、次の説明と差し替えた。 ヒントさん「10円硬貨は、平等院の絵柄の面が表、大きな10の絵柄の面が裏だよ。」	
	153	写真	修正	さいころの写真を図で表した。	
156	9	修正	事象を示す [] を () にする。以下同様とする。	マス数を減らすため。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年	158	6	修正	表の青い網かけは、小点で囲み、本文にも作図したものを示した。	
	159	図	修正	図は削除し、ヒントさんのコメントとした。	
	164	図	修正	乱数さいの目の例は、文章化した。	
	176	図	削除 修正	図は削除し、本文を修正した。 「アメリカの新聞の記事によると・・・」	
	180	2	修正	次のように注などを挿入し、課題の意図が分かるようにした。点字の一覧表は、省略した。 (注) これは、点字を知らない普通の文字を使用する人に点字のしくみを考えてもらう課題です。 財団法人「愛の小鳩事業団」が作っている「愛の小鳩カレンダー」の表紙には、次のメッセージが点字で打ってあります。 アタラシイ トシノ アナタニ ココロヲ コメテ オクリマス (注) 普通の文字の印刷で点字を示すとき、メの字のように6つの丸をならべ、出っばっているところだけを塗りつぶして表すことがあります。 (注) 「ヤ ユ ヨ ワ ン」だけが示されている表があるものとして考えてみましょう。	
191	写真	削除	写真は削除し、説明文のみ3章末に「いろいろな時計」として挿入した。		
裏見返し裏			修正	次のように補足説明を追加し、別に関連図を示した。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">図形の関連</p> <p>2年生で学んだ図形の関連についてまとめてみましょう。学んだ図形の性質などは大きく次の5つのグループに分けられます。</p> <p>(A) 平行線と角 (B) 合同 (C) 二等辺三角形 (D) 平行四辺形 (E) 円</p> <p>各グループの中の□にあてはまることばや記号を、入れてみよう。</p> <p>(注) 各グループ内で、性質にはs 1 s 2・・・条件にはj 1 j 2・・・と番号をつけました。また、各グループの中で、各性質がどのように関連しているかについては、矢印で示しました。また、5つのグループの関連については、P. O Oに示してあります。</p> </div>	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年				<p style="text-align: center;">5つのグループの関連図</p> <pre> graph TD A[A] --> C[C] B[B] <--> C B --> D[D] C --> E[E] </pre>	
	裏見返し			<p>写真は削除し、次のように文章化したものを自由研究「伝統模様と図形のしきつめ」の後に挿入した。</p> <p>「〇〇ページで紹介……, いろいろなものに使われています。たとえば, 大分県別府竹細工では, ざるを, 図〇〇のような「籠目模様」にくみあげるとか, 香炉とそれをのせる盆に, 図〇〇のような「七宝模様」をほどこすとか, 神奈川県箱根の寄せ木細工では, 図〇〇のような「麻の葉模様」を利用した装飾がほどこされた箱などが作られているなどいろいろなものに利用されています。」</p>	
3年	見返し			<p>写真は削除し、次のように文章化したものを6章の本文の最後に挿入した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">通潤橋</p> <p>熊本県にある通潤橋は, 江戸時代に造られた日本最大の水を通す石橋です。</p> <p>橋の途中に放水口があり, ここから放水された水は放物線をえがきます。</p> </div>	
	見返し裏			<p>写真は削除し、次のように文章化したものを4章の初めおよび5章の本文の最後に挿入した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">木下駒</p> <p>宮城県の木下駒は, 馬の形をした木製の郷土玩具で, 全体は黒で, 菊の花の鞍飾りや赤地に5本の白い線を引いた模様の胸飾りがかかれています。いろいろな大きさのものがいますが, 大きさが違って形は同じです。</p> <p style="text-align: center;">三平方の定理の木</p> <p>図〇〇のように正方形の上にその辺を斜辺とする直角三角形をかき, その直角三角形の外側に2つの正方形をかく。次に, それぞれの正方形の外側にその辺を斜辺とする小さい直角三角形をかき, それぞれの直角三角形の外側に2つの正方形をかく。また, 直角三角形をかく……</p> <p>これを続けていくと全体の形が木のようなになる。</p> <p style="text-align: center;">(図〇〇)</p> </div>	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	9	4	修正	ノートの部分は、次のように修正し、枠で囲んで挿入した。 $\begin{array}{r} 28 \ 2 \\ 14 \ 2 \\ \hline 7 \end{array}$ $28 = 2^2 \times 7$ (注) 一般には次の左のように計算するが、点字では、右側のようにしてもよい。 $\begin{array}{r} 2) 28 \quad 28 \quad 2 \\ 2) 14 \quad 14 \quad 2 \\ \hline 7 \quad 7 \end{array}$	点字で計算する形式を先に示した。
	10	10	追加	次の注を追加した。 (注) 分数は分数囲み記号を用いて $\text{::} \text{::} (\text{分子}) \text{::} (\text{分母}) \text{::}$ と書く。	3学年での分数の初出。
	11	4	追加	4桁目の下に、次の(注)を入れた。 (注) 一般には、 $\sqrt{\text{::} \text{::}}$ のように、 $\sqrt{\quad}$ の中に数を書く。	
	11	7	追加	(注) 一般には、記号「 $\text{::} \text{::}$ 」は、プラス記号の+の下にマイナス記号 - を書いて1つの記号とし、±と書く。	
	12	図	修正	2つの図に分けた。	
	13	図	修正	rの変形の図は、形だけの点図とした。	
	15	8	追加	次の注を追加した。 (注) $\text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::} \text{::}$ のように、根号の中に2つ以上の数や文字が含まれるときには、その部分を括弧ではさむ。	
	17	7	修正	ノートの部分は、9ページで修正した点字の形式とした。	
	18	5	修正	ノートの中に下向きの矢線を加え、「2けたずれる」、「1けたずれる」とした。	
	25	4	修正	「1から100までの数を表〇〇のようにかきます。」を挿入して、その表(数符は省略)を示した。本文中「〇印をつけて」を省略し、「残った数が素数である。」などと表現を変えた。	
	26	図	修正	青い線を細線、赤い線を太線とした。	
	27	5	追加	本文にも「細い線」と「太い線」の後に図で使用した線を示した。また、次の注を追加した。 (注) 細い線は青い線、太い線は赤い線で表されている。	
	27	図	修正	図中の矢線を削除し、頂点をD, E, Fとして、次のヒントを挿入した。 ヒントさん「図〇〇のCDをEFに移動して…」	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	36	16	修正	公式との対応関係をヒントさんのコメントとした。 ヒントさん「乗法公式 $(x-a)^2=x^2-2ax+a^2$ で x が $2x$, a が $3y$ のときだね。」	式が1行で書けないため 図式的に示すことが困難である。
	37	14	修正	36ページと同様にヒントさんのコメントとした。	同上
	39	5	修正	ヒントさん「〇〇ページのような長方形と正方形を切り取って、並べてみよう。図〇〇のように大きい正方形を左上において、その右側や下側にほかのものを並べてみよう。」 「手がかり」できた長方形をかいてみましょう。	
	45	5	修正	「裏に出した点でうめた部分の面積・・・」	
	51	4	修正	「裏に出した点でうめた部分の面積・・・」	
	53	11	修正	「点でうめた部分の面積・・・」	
	63	図	削除	見取図を削除した。	
	68	写真	修正	写真を点図にし、次の説明を入れた。また、五稜郭の図には、2つの頂点にA, Bを付けた。 「北海道五稜郭跡の航空写真から、五稜郭の形だけを、図にしたものである。」 「雪の結晶の顕微鏡写真から、結晶の形を、図にしたものである。」	
	69	3	修正	写真を削除し、「図〇〇で五稜郭跡の頂点AからBまでの長さをはかり、それを・・・」	
	71	13	追加	(注) 一般に、相似の記号 \sim をのと書く。	
	72	3	修正	図〇〇のように四角形ABCDをかき、その各辺を3倍に拡大した・・・	
	73	1	修正	図〇〇のように四角形ABCDをかき、点Oを適当にとります。次に頂点A・・・となるようにとります。	
	82	1	修正	写真の必要な部分を点図にし、問9を次のように修正した。 「図〇〇は、Aさんが小学部に入学したときに写した写真から、その概形を図にしたものです。校門の・・・」	長さは、原典と同じにした。
	83	3	修正	「Q野線の入ったノートの・・・」	
	91	図	修正	②, ③には交点に記号をつけて長さを示した。	
	95	図	削除	下の図は削除した。	
97	図	修正	一つのマス目幅を大きくし、マス目の数を減らした。		
103	図	修正	図を削除し、説明を次のように修正した。 「校庭などの広い場所で、1本のひもがあれば次のようにして、直線をひいたり、円をかいたりすることができます。 直線一ふたりの人で2地点間にひもをぴんとはり、第		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年				3の人がそれに沿って直線をひく。 円一ひとりの人が円の中心にひものはしを固定し、もうひとりの人がぴんと張りながら円を書く。」	
	103	11	修正	また、図〇〇のように、ひもの上に等しい間隔で結び目(1~13)を作り、1と13をひとりが重ねて持ち、他のふたりが4と9を外側にぴんと張ることで、図〇〇のように直角をつくることもできます。	
	111	図	修正	右上隅の図は、2倍とし、注を入れた。 (注)点字教科書では、実際は、 $AB=8\text{cm}$ 、 $BC=12\text{cm}$ として折りやすくしてあります。	
	111	図	修正	図中の等長記号は削除した。	
	113	4	修正	「・・・三つの半円の部分の面積・・・」	
	116	3	修正	ヒントさんの内容を、次のように修正した。 ヒントさん「ジェットコースターや球が斜面を下りるとき、進む距離は時間にもなるとどのように変化するかかな。」	
	120	図	修正	拡大を示す赤い線は省略し、「原点の近くの拡大図」と名称をつけた。	
	121	表	修正	-0.7~-0.2と0.3~0.8の部分を省略した。	
	131	3	修正	問1 次の(1)~(3)は、2つの関数の特徴をまとめたものです。□にあてはまることばを答えなさい。 図については見開きで、左ページには関数 $y=ax+b$ 右ページには関数 $y=ax^2$ について示しています。 ----- (1) グラフの形 (図〇〇) $y=ax+b$ 直線 (aは傾き bは□) $y=ax^2$ □ (2) yの値の変化 $a>0$ のとき (図〇〇) $y=ax+b$ つねに□ $y=ax^2$ $x=0$ を境として、減少から増加に変わる。 $a<0$ のとき (図〇〇) $y=ax+b$ つねに減少 $y=ax^2$ $x=0$ を境として、増加から減少に変わる。 (3) □ $y=ax+b$ 一定でaに等しい。 $y=ax^2$ 一定ではない。 -----	
	134	写真	差し替え	時計の写真は削除し、噴水の写真は「噴水やホースから出る水のえがく図形」の略図とした。パラボラアンテ	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年				ナの写真は、電波が反射する様子が分かる略図とした。	
	134	16	修正	ヒントさん「parabolaの意味を調べてみよう。」	
	140	図	差し替え	最初の立方体の見取図は削除し、 $0\sim 3$ の立方体の図は、次のように文章化した。 「小さな立方体を色のついている面の数で分類すると、全く色のついていないもの、1面のみに色のついているもの、隣りあう2面のみに色のついたもの、隣りあう3面のみに色のついたものの4通りの場合に分けられる。それを、それぞれ[0]の場合、[1]の場合、[2]の場合、[3]の場合ということにする。」	
	141	図	修正	上から見た図のみとした。	
	142	図	修正	上から見た図のみとし、問8の前に次の説明を加えた。 ヒントさん「たとえば、もとの立方体の1辺が4cmのときを考えると、色が1面も塗られない立方体は図〇〇の実線でかかれたものだね。」	
	144	1	修正	問1の図は、前ページの図で代用し、次の注を入れた。 (注) この図は、普通の文字の図の2倍の長さにあります。	
	152	15	追加	縦横が10の図を追加し、本文は、「図〇〇を利用してもよい。」とした。	
	177	写真	差し替え	塵劫記の写真は、次の説明と差し替えた。 ヒントさん「塵劫記には「大数の名前」というページがあり、そこには「一」「十」「百」「千」の後は4桁ごとに「万」「億」「兆」「けい」「がい」「じょ」「じょう」「こう」「かん」「せい」「さい」「ごく」「こうがしや」「あそうぎ」「なゆた」「ふかしぎ」「むりょうたいづう」であることが示されているよ。」	
	179	写真	差し替え	ミロのビーナスの写真は、略図と差し替えた。	
	180	2	修正	正方形ABCDを図〇〇のように、頂点Aが辺BC上にくるように折ります。	
	182	写真	差し替え	2つの写真は、次の文章と差し替えた。 「アルゼンチンでは、温暖化のため氷がとけ、高さ百メートル以上の氷河が海に崩れ落ちています。」 「インド洋に浮かぶモルディブ諸島は珊瑚礁の美しい島々ですが、海抜が低いため水没し、国そのものが無くなることも心配されています。」	
185	写真	差し替え	次の文章と差し替えた。 ヒントさん「北海道では、風力発電が盛んに行われているよ。」		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3年	193	2	修正	<p>次のように修正した。</p> <p>「3年生で学んだ図形の関連についてまとめてみましょう。学んだ図形の性質などは、大きく次の2つのグループに分けられます。</p> <p>A：相似 B：三平方の定理</p> <p>各グループの中の□にあてはまることばや記号を、入れてみよう。」</p> <p>(注)各グループ内で、各性質がどのように関連しているかについては、矢印で示しました。」</p>	
	195	図	修正	<p>正方形は削除し、他の図は該当の巻末に挿入した。</p>	
	裏見返し裏		修正	<p>写真を削除し、次の説明をP.95に挿入した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">伊能 忠敬</p> <p>伊能忠敬(1745年～1818年)は56才から測量を始め、72才までの間にほぼ全国を測量し、多くの地図をつくりました。測量にかかった日数は3736日、歩いた道のりは地球一周分をこえるといわれています。</p> <p style="text-align: center;">伊能図</p> <p>伊能忠敬のつくった日本地図のことです。コピー機械などのなかった当時は、すべて手書きでした。東京国立博物館に所蔵されている「中図」と呼ばれるものは、21万6千分の1の縮尺でかかれています。</p> <p style="text-align: center;">測量に使った道具</p> <p style="text-align: center;">量程車</p> <p>地面を引いて行く、車のついた木製の箱のようなもので、いくつもの歯車がかみ合い、目盛りも数個ついています。車輪を回転させて、その回転数で長さをはかりました。</p> <p style="text-align: center;">中象限儀</p> <p>望遠鏡と垂直方向の角度をはかる大きな分度器とそれらを支える支柱が一緒になった観測器械。星の見える角度をはかるために使われました。</p> <p>(どちらも千葉県・伊能忠敬記念館所蔵)</p> </div>	
	裏見返し裏		追加	<p>次の文章を加え、P.115に挿入した。</p> <p>「三平方の定理の証明は他にもたくさんあります。次に示した図○○から○○は、その一部を示したものです。図からその方法を考えてみましょう。」</p>	
	裏見返し		修正	<p>北斎の絵画は削除し、他の写真は略図を示した。</p> <p>また、次の説明を加え、P.179に挿入した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>富嶽三十六景 神奈川県沖浪裏(葛飾北斎) 神奈川県沖の荒れ狂う大波の間から遠く富士山を</p> </div>	

学年	ページ	行	修正 事項	修正内容	備考
3年				<p>見た名画で、画面の中には全体の中での富士の位置、空と海、崩れ落ちる浪の大きさなど多くの箇所 に黄金比がうかがえます。</p> <p style="text-align: center;">凱旋門（フランス）</p> <p>ナポレオンの業績を記念して建てられたもので、パリのエトワール凱旋門とも呼ばれている。この種の建築では世界最大のもので、高さは49mもある。いろいろな高さに黄金比が見られます。 図〇〇</p> <p style="text-align: center;">パルテノン神殿（ギリシア）</p> <p>アテネのアクロポリスに建つ古代の有名な神殿。いろいろな箇所に黄金比を見いだすことができ、これがこの神殿の美の秘密と考えられています。図ス-11</p> <p style="text-align: center;">オウム貝</p> <p>図ス-12のような“らせん”を「黄金らせん」といいます。オウム貝の断面は、黄金らせんに似た線をえがいています。</p>	

3 参考資料

各学年、第1巻の扉の後に次の文が挿入されている。(点字2ページ)

点字による数式の書き表し方について

平成14年4月から、点字による数式の表し方が変更されました。この教科書では、次のような原則で書かれています。

(1) 数式について

数式のはじめには、

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

のように数式指示符 ⠠⠠⠠ をつけて書き表します。ただし、数符 ⠠⠠⠠ から始まる数式、日本語を囲む括弧 ⠠⠠⠠ から始まる数式には、数式指示符をつけていません。

(2) 分数について

分数は、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ のように分数全体を分数囲み記号 ⠠⠠⠠ で囲んで書き表します。

(3) 図形などを表す大文字について

アルファベットの太文字で3角形などの図形を書き表すとき

三角形 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ のように2重大文字符 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ を付けてそれぞれの文字が太文字であることを表します。

(4) 単位について

単位を書くときは 10 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ のように単位括弧 ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ を用いて書き表します。

(5) 図や表の中での扱いについて

図や表の中では、文字を書くマスに制限があるので数式指示符を使わないで書くことがあります。また、図や表の中では、単位括弧を使わないで書いています。